

# 「耐震構造の人間関係」形成に向けて学生の地域参加を進める事業

## 阪神・淡路大震災30年記念講演会 「生きてこそ～1.17を忘れない～」

阪神・淡路大震災発災から30年を迎えるにあたり、灘区民ホールで講演会を開催しました。講師に、震災で娘の志乃さん（当時神戸大学発達科学部2年生）を亡くされた、上野政志さんをお招きし、震災当時や現在までの思いなどをお話しいただきました。

当日は会場、オンラインで52名の方に参加していただきました。高校生、大学生、社会人と幅広い年代の方がいらっしゃいました。また、灘区内にお住まいの方はもちろん、東北地方の方にも多くご参加いただきました。

参加者でおこなったグループワークでは、震災当時の経験や語り継ぐ難しさ、それぞれの思いなどについて話し合われました。

## 水道筋えびすひろば

神戸市灘区にある水道筋商店街にご協力をいただき、商店街内で休憩所の運営をさせていただきました。夏には冷茶を配布しました。また、1月18日には阪神・淡路大震災当時の写真を展示しました。買い物に来た方たちは足を止め、当時の話をしてくださることもたいへん多くいらっしゃいました。

〈1月18日地域の方の声〉

- ・都賀川で水を汲んだ
- ・稗田小学校の横の川から水を汲んだ。当時は道から川の底までが今より浅かった
- ・山(六甲山)から水がちょろちょろ湧いてると聞いて、くみにいった
- ・犬も3匹くらい一緒に避難してた。夜になるとくうーんと鳴く。しょうがないなとなって、中に入れて布団で一緒に寝てた。夜、「静かにしなさい、追い出されるよ!」という声が聞こえて、子どもが叱られてるのかと思ったら、飼い主が犬を叱ってた。このワンちゃん(展示してた写真に写ってる柴犬)に似てた。もう30年経ったから、あのワンちゃんももう亡くなってかな。

## 神戸大学学生震災救援隊

1995年1月、阪神・淡路大震災の救援活動を目的に結成。まちに潜む課題に取り組むこと、災害に強い地域の横のつながり（耐震構造の人間関係）をつくることを掲げ、灘・神戸での地域活動と全国の被災地での支援活動に取り組んできました。

阪神・淡路大震災30年記念講演会 次世代へのメッセージ

## 生きてこそ～1.17を忘れない



阪神・淡路大震災から間もなく30年目を迎えます。目に見える傷跡は無くなっても、人の心に残った傷は、何年経っても癒えないこともあります。

阪神・淡路大震災で、娘である神戸大学生の上野志乃さん（当時発達科学部・2年）を亡くされたお父さんの上野政志さんに、命の大切さ、ご遺族の思い、そして震災の経験から学び続けることの大切さについてお話しいたします。

日時：2025/1/16(木)18:00～20:30  
会場：灘区民ホール会議室（オンライン併用）

講師：上野政志さん

兵庫県佐用郡佐用町の元小学校教諭。長女・志乃さん（当時20歳）を1995年1月17日に起きた阪神・淡路大震災で亡くした。「なぜそこに下宿させたのか」「なぜ家に引き留めなかったか」後悔は募る。その後、震災も娘のことも忘れてほしくないと、体験を語ってきた。「娘を知ってもらうことで、ふと娘が生きているように思える瞬間がある」。私たちが話を聞くこと、忘れないことが上野さんを支える。



【お申し込み】

右のQRコードから事前にお申し込みください。  
オンライン（ZOOM使用）参加可能。  
お申し込み時に参加方法をご選択ください。



主催：神戸大学学生震災救援隊 共催：被災地に学ふ会

お問い合わせ 090-8379-9969(藤室) | hisaichi.ni.manabu.kai@gmail.com

この講演会は神戸大学地域連携推進本部「学生地域アクションプラン」の一環として実施されます。

